

事業概要につきましては、松戸市新焼却施設整備詳細調査検討会においてお示ししておりますため、本資料ではその時点から変化のあった主な事項についてお示しいたします。

1 事業方式について

PFI 導入可能性調査において、本事業の前提条件等を踏まえ、適用可能性があるとした事業方式について、定性的評価及び定量的評価(経済性の比較)を行い、定性的評価において、最も優れ、市場が最も広く、コスト縮減や透明性も図れ、ほぼ全ての項目に優れると評価し、定量的評価において、財政負担軽減率(VFM)が最も大きいため、経済性が最も優れるとの結果が得られた DBO 方式を選定しました。

①定性的評価(概要)

評価項目	公設 公営	DB + 長期	DBO	BTO	BOT	BOO
市場動向	△	△	○	△	×	×
コスト縮減効果	△	○	○	○	○	○
長期債務負担の確定	△	○	○	○	○	○
リスク分担の明確化(運営時)	△	○	○	○	○	○
サービス水準の確保の仕組構築	△	○	○	○	○	○
契約不適合責任	△	△	△	△	○	○
施設所有に係るVFMの影響	○	○	○	○	△	△
金融機関のリスクと事業監視	○	○	○	△	△	△
資金調達	○	○	○	△	△	△
事業の透明性・公平性の確保	△	○	○	○	○	○
運営期間の行政事務手続き	△	○	○	○	○	○
②定量的評価	採用する			採用しない		

②定量的評価(経済性の比較)

評価項目	公設公営	DB+長期	DBO	BTO
VFM	-	1.63%	2.85%	-4.39%

2 事業スケジュールについて

現時点の事業スケジュールは下記のとおりです。

項目	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16 ～ R35
事業者選定										
設計・建設工事										
解体工事										
実施設計										
建設工事										
試運転										
施設稼働 (運営維持管理)										

※R8.1 入札公告、R8.12 契約締結を予定

3 多目的広場の整備方針について

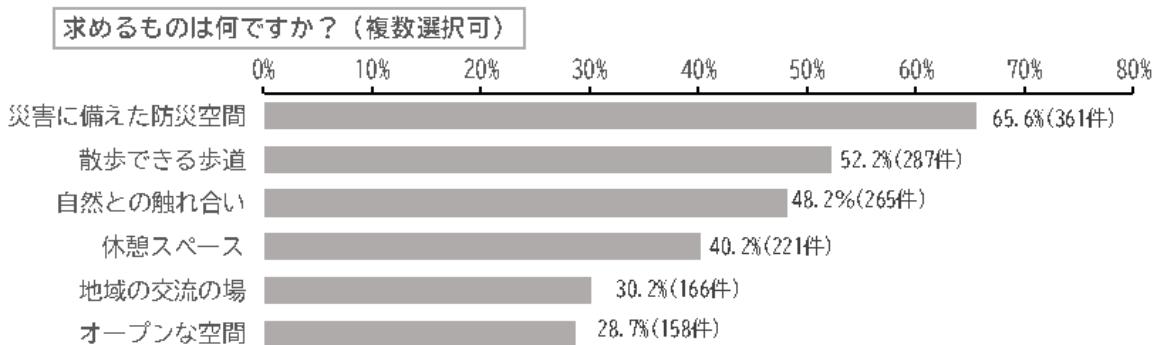
旧クリーンセンターの多目的広場は緑地を公園のように整備・供用しており、現在も近隣住民に利用されています。新焼却施設においても、近隣住民が利用できるよう、可能な限り近隣住民の要望を反映する方針です。

要望については、下記のとおり近隣住民に対して無作為抽出アンケートを実施しており、こちらの結果を基に検討しております。

期間:令和7年7月4日(金)から7月25日(木)まで

有効回答数:550件(回収率36.7%)

結果:代表的な質問回答は下図のとおり



上記の結果から、想定される設備は下記のとおりです。

災害に備えた防災空間・オープンな空間

- ・芝生広場(災害時に災害廃棄物置場や避難者の駐車場として活用)

散歩できる歩道

- ・散策路

自然との触れ合い

- ・植栽

休憩スペース

- ・ベンチ、水飲み場、トイレ

地域の交流の場

- ・ドッグラン